

「学生が望む、よい授業とは」

〇はじめに ～学生FD活動とは？～

学生の参画を得て行われるFD活動を指し、「学生とともにすすめるFD活動」とも言われます。学生の大学生活の中心である授業を、学生、教員、職員の三位一体で改善、向上させようとする取り組み、およびそれに関わる活動をいいます。

東洋大学では、2010年度より学生FD活動がスタートし、全学から学生FDスタッフを公募しています。学生FDスタッフは、学生の力、視点を活かしFD推進センター教職員の方々と連携して、本学の教育向上に向けた取り組みを進めています。

1. 東洋大学の学生FD活動における、これまでの授業向上に向けた取り組み

(1) 交流会(しゃべり場)の開催 ～学生の思いと生の声を集める～

- ・学生の学科・学年を超えた交流、学生と教職員間の交流を通して授業や学生生活について考え合う交流会(しゃべり場)を開催しました。
- ・テーマは「授業をおもしろいと感じるとき」「よい授業とは」など。
- ・2011年度は3回、2012年度は4月に新入生向けしゃべり場を開催しました。



学生、教職員が5～6人の班でしゃべり合います。

(2) 「先生インタビュー～駅伝リレー～」の実施

シラバスにはない先生から学生への声、授業への思いなどを聞き、その声と先生の授業を大学全体に発信することによって学生の授業への関心をより高めようと先生インタビューを実施しました。



研究室に伺い、インタビューする様子

(3) 研究活動、学外企画への参加・交流など

「学生FDサミット」(立命館大学主催)など、学外での学生FDイベント・フォーラムへ多数参加し、情報収集を行うほか、本学の取り組みの発表も積極的に行っています。

2. 大学間連携(関東圏FD学生連絡会)での取り組み

法政大学・青山学院大学・立教大学・東洋大学の学生、教職員が授業や大学について考えるイベント等を開催し、大きな規模で学生、教職員がともに「大学教育」や「授業向上」について考える場を設けました。2012年9月には、白山キャンパスにおいて、主に関東の大学の学生、教職員が集い、「第1回関東圏FD学生フォーラム(テーマ:受けたくなる、よい授業とは)」を開催しました。



「第1回関東圏FD学生フォーラム」の様子
(2012年9月17日、白山キャンパスにて開催)

これらの活動・取り組みを通して、「学生が望むよい授業とは何か」が少しずつ明らかになってきました。

3. 「学生が望む、よい授業」とは何か ～学生の生の声から～

◇ 学生が考える、普段受けている授業に関する一般的な問題点

- ・寝ている学生がいる。私語が多い。
- ・履修登録だけして、授業に出ない。(配布プリントだけもらって帰ってしまう。)
- ・大人数の授業は、一方的な講義形式であることが多い。
- ・グループワーク等があっても、学生の役割分担が偏っている。
- ・単位をとることだけが目的の学生が多い気がする。

(1) 授業方法、授業内容・展開

① グループワーク、ディスカッション、ディベートなど (アクティブ・ラーニング) の活用

- ・(学生の声) 学生の主体性を高める上で、活用してほしい。
だが講義で得られる知見がないと、ディスカッションなどはできない。講義とのバランスが重要なのではと感じる。
- ・単なるグループワークではなく、競争型としたら学生の意識が上がるのではないか。
- ・学生同士のフィードバックの機会を設け、学び合いの場が必要ではないか。
- ・課題解決型授業 (PBL) を導入してほしい。

② 先生と学生との双方向授業

・一方向性の授業は

- 学生のモチベーションが上がりにくい。眠くなりやすい。
- 質問がしにくく、授業でおいてきぼりになりやすい。
- ・コメントペーパーや出席カードを活用する。(授業内容の質問や要望を受け付ける)
- ・レポートに、採点やコメントをつけて返してほしい。
→学生の多くは、書いたレポートに対してフィードバックを求めている。次への励みになる。

③ 授業内容の工夫

- ・内容が、理論に偏りすぎていると眠くなりやすい。例もおりまぜて説明してほしい。
- ・授業内容に、日常生活との関連性を感じると授業がおもしろいと思う。
- ・簡単すぎると、授業はつまらない。(ある程度難しく、厳しくあってほしい。)
→この意見は、学生によって大きく異なると考えられます。

④ そのほか

- ・パワーポイントのスライドを流すだけでは、知識は身につかない。
- ・授業中のブレイクタイムをもうける工夫があると、学生の意識が変わるのではないか。
(例えば、前半の講義内容について周りの学生と意見交換をさせるなど)

(2) 学生が授業を受ける環境

- ・学生側の望ましい姿勢は、大前提として、「寝る人」「おしゃべりする人」がいないこと。
- ・少人数の授業は、先生との距離を近く感じることができ、学ぶ意欲が湧く。
→このような意見は、しゃべり場で多数あり「授業の規模」「教室の大きさ」は学生が講義を意欲的に受ける上で大きな要素であることが明らかになっている。

(3) 「先生」について

「先生」については、学生が授業を意欲的に受講する上で重要であるという声が非常に多い。

- ・先生の話し方が独特でうまいということ。
- ・あたたかみがあり、間違いを指摘するだけでなくフォローがある。
- ・学生の顔を覚えてくれていると、次の授業も必ず出席しようと思う。

4. 「学生が考えるよい授業」を実現するために

(1) 学生の授業に対する意欲向上に向けて、学生側からアクションを起こす

- ・学生の私語、睡眠をなくしていく。(学生同士が注意し合い、授業参加を促す。)
- ・授業評価アンケートへもっと積極的に回答する。(特に自由記述部分)
- ・グループワークやディスカッションで積極的に意見を述べるなど、授業へ主体的に臨む。
- ・学生の視点に立った、授業に関する情報を発信し、授業に対する興味、関心を高める。

(2) 様々なツールの活用

- ・ToyoNet-ACE (manaba course) を活用する。(掲示板機能など)
- ・出席の取り方を工夫する。(manaba course、コメントペーパーなど)
- ・学習者中心のシラバスへの転換を図る。
→学生がシラバスを読む上で真っ先に目を通す部分は「成績評価」



5. さいごに

学生FDスタッフは、これからも「学生にとってよりよい授業」を実現していくために、教職員の皆様と協力して取り組みを進めていきたいと考えています。

- ・現在、学生FDスタッフの授業改善担当ワーキンググループが、学生の視点を活かした、新たな授業向上に向けた取り組みを企画しています。
- ・授業向上に向けた取り組みによって、「学生の主体的な学び」が確立されることを目指します。
- ・今後も、取り組みを行う中で得られた「学生の授業に対する生の声」を教職員の皆様へ発信し、学生の力、声を活かした教育が展開されるよう努力してまいります。また、教職員の方々から学生に対する声も受け付け、取り組みに活かします。



ご清聴、ありがとうございました。

今後とも、学生FD活動にご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

★ホームページ : 東洋大学FD推進センター「学生によるFD活動」
http://www.toyo.ac.jp/fd/student_j.html
 ★問い合わせ先: E-mail mlstudentfd@toyo.jp